Press Release　2022.02

東京オペラシティアートギャラリー　これからの展覧会スケジュール

2022 年 4 月 16 日[土] - 6 月 22 日[水]　篠田桃紅展

同時開催：収蔵品展 073 1960〜80 年代の抽象（タイトル未定）**、project N 86 諏訪未知**

篠田桃紅（1913-2021）は、70 年を越える活動を通して、孤高の位置をまもりながら、前衛書から墨による独自の抽象表現の領域を拓き、探究し続けました。中国の大連に生まれ、東京で育った篠田は、自立した生き方を求めて書の世界に身を投じ、戦後まもなく、40 歳を越えて単身ニューヨークに渡り活動の場を大きく拡げます。新しい表現を求める熱気あふれるこの時代、欧米の抽象芸術と日本の前衛書が時代の先端で響きあうなか、篠田の表現は大きな注目と高い評価を獲得したのです。帰国後は、書と絵画、文字と形象という二分法に囚われない、墨によるまったく新しい独自の抽象表現、空間表現を切り拓き、ときに建築的なスケールにまで及ぶ制作によって、他の追随を許さない位置を確立しました。篠田はまた、版画の世界でも固有の表現を確立し、また豊かな教養と繊細な感性、そして怜悧な批判精神に裏打ちされたエッセイの名手としても、ひろく人々から愛されました。惜しくも 107 歳で逝去した作家の没後 1 年を経て開催される本展は、桃紅の長きにわたる活動の全貌を紹介するとともに、その広い射程と現代性を今日的な視座から検証するものです。

（担当：福士理）

《熱望》2001 公益財団法人岐阜現代美術財団蔵

project N 86　諏訪未知　SUWA Michi

1980 年生まれ

個展	2020	３つの世界 (KAYOKOYUKI 東京)
	2021	Solid Objects (gallery21yo-j 東京)
グループ展	2018	絵画の現在 (府中市美術館 東京)
	2020	VOCA 展 2020 現代美術の展望ー新しい平面の作家たちー (上野の森美術館 東京)　ほか

《翠》2021

2022 年 7 月 16 日[土] - 9 月 19 日[月・祝]　ライアン・ガンダー　われらの時代のサイン

同時開催：ライアン・ガンダーが選ぶ収蔵品展、project N 87 黒坂祐

当初 2021 年に開催を予定していたガンダーの個展。コロナ禍により延期となってしまいましたが、本人からの協力の申し出により「ガンダーが選ぶ収蔵品展」を代わりに開催しました。「困難な状況でも発想の転換でよいものを」この姿勢と、絶妙な手法で寺田コレクションに新しい光を当ててくれたガンダー。次はこれまた渾身の力で、いよいよ自身の個展に挑みます。
身近な事柄を鋭く観察・分析して制作される彼の作品は、私たちにさまざまな問いを抱かせます。「あたりまえ、これってなんでだっけ？」大まじめに、しかしユーモアを交えて「そもそも」を考えるきっかけをつくるのは、ガンダーの作品の真骨頂です。
今回の個展では、彼の制作に通底するいくつかのテーマ、たとえば「時間」「価値」「教育」「見過ごしていること」など、私たち誰にとっても大切で、興味深いことにまつわる作品が展示室全体に散りばめられます。ガンダーのしかける楽しさ一杯のゲームに、常識で凝り固まった頭をやわらかくほぐして挑んでください。
上階は「ガンダーが選ぶ収蔵品展」をあらためて開催します。あっと驚く収蔵品展にもご期待ください。(担当：野村しのぶ)

《2000 年来のコラボレーション(予言者)》2018 公益財団法人石川文化振興財団蔵 © Ryan Gander. Courtesy of TARO NASU photo: Stevie Dix

project N 87 黒坂祐　KUROSAKA Yu

1991 年生まれ

個展	2017	きょうまで生きてこられてよかった (野方の空白 東京)
	2020	いくつかのリズム、不活性な場所 (四谷未確認スタジオ 東京)
グループ展	2019	荒れ地のアレロパシー (三越コンテンポラリーギャラリー 東京)
	2020	Artist Running Festival (XYZ collective 東京)　ほか

《シャワールーム》2020

2022年10月8日[土] - 12月18日[日]　川内倫子展（タイトル未定）

同時開催：収蔵品展 074　連作版画の魅力（タイトル未定）、project N 88 臺原蓉子

川内倫子（1972- ）は、国内外で高く評価されている写真家です。写真集『うたたね』、『花火』（リトルモア、2001）の2冊で第27回木村伊兵衛写真賞を受賞し、以降今日まで精力的に写真集の刊行や個展の開催を行っています。川内の写真は、柔らかい光をはらんだ独特の淡い色調を特徴とし、初期から一貫して、人間や動物、あらゆる生命がもつ神秘や輝き、儚さ、力強さを撮り続けています。川内のまなざしは、身の回りの家族や植物、動物といった光景から、火山や氷河といった壮大な自然に対してまで等しく注がれています。日常にある儚くささやかな対象と、長い時を経て形成される大地の営みとが、独自の感覚でつながり、同じ生命の輝きを放っているところに、川内の作品世界の大きな魅力があるといえます。
本展では、川内がこれまで発表したシリーズを織り交ぜつつ、アイスランドなどを撮影し地球との繋がりをテーマとする新しいシリーズの〈M/E〉に、コロナ禍における日常を撮影した新作群を加えて紹介します。本展は、人間の命の営みや自然との関係についてあらためて問い直す機会となることでしょう。

(担当：瀧上華)

《無題》(シリーズ「M/E」より) 2019

project N 88 臺原蓉子　DAIHARA Yoko

1989年生まれ

個展	2021	庭 (Lavender Opener Chair 東京)
グループ展	2021	Lavender Hair (im labor 東京)
	2020	Artist Running Festival (XYZ collective 東京)

《他人の庭》2021

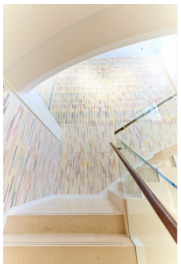
2023年1月18日[水] - 3月26日[日]　泉太郎展（タイトル未定）

同時開催：収蔵品展 075 彫刻家のドローイング（タイトル未定）、project N 89 川人綾

泉太郎は（1976- ）は、映像、パフォーマンス、ドローイング、絵画、彫刻といったさまざまなメディアを交錯させるインスタレーションを主な表現手法とし、精力的に作品を発表しているアーティストです。国内のみならず海外でも活動を行う泉は、2017年にパリのパレ・ド・トーキョーで、海外で初となる大規模個展「Pan」を開催し、さらに2020年には、スイスのバーゼルにあるティンゲリー美術館で個展「ex」を開催しました。
泉は、日常に潜む矛盾や摩擦に着目し、暗に定められたルールや我々を取り巻く環境に批判的なまなざしを向けてきました。裏と表、自由と不自由など、日ごろ無意識的に切り分けられる常識を懐疑的に見つめ、思いがけない角度から疑問を提示し続けています。
本展は、東京で初めての泉太郎の大規模個展となります。これまでの作品を踏まえながら、本展に合わせて構成される、泉の新たな挑戦を体験する機会となるでしょう。

(担当：福島直)

《雲(世界の目)》行方不明の猫のためのポスター20枚と、見つかった猫のポスター1枚 2020 ©Taro Izumi Courtesy of Take Ninagawa, Tokyo



project N 89 川人綾　KAWATO Aya

1988年生まれ

個展	2018	川人綾 個展 (イムラアートギャラリー 京都)
	2020	Tell me what you see (Pierre-Yves Caër Gallery パリ)
グループ展	2021	CADAN ROPPONGI presented by Audi (六本木ヒルズ Hills café/Space 東京)
	2017	群馬青年ビエンナーレ (群馬県立近代美術館 群馬)　ほか

ロンシャン ウィーン(ウィーン、オーストリア)での展示風景 2021 photo: ロンシャン

お知らせ
2022年4月より、東京オペラシティアートギャラリー チーフ・キュレーターに天野太郎が就任いたします。
詳細はプレスページをご覧ください。

■お問い合わせ
東京オペラシティ アートギャラリー　【広報】市川靖子、吉田明子
Tel：03-5353-0756 / Fax：03-5353-0776 / Email：ag-press@toccf.com